



ゼミで得た多くの経験や人脈を
仕事にも生かしたい。

学んだ言葉の本当の意味を、
現場でかみしめて。

石川昭義先生

副学長、人間生活学部子ども教育学科教授。保育者養成に関わって30年以上。専門分野は保育学

永宮佳奈さん

19年卒
子ども教育学科
16期生

仁愛大学卒業後、越前市幼稚園で幼稚園教諭として勤務。初年度から年長組を担当

仁愛大学同窓会『世灯会』がお届けする「卒業生ダイアログ」。今回は、教授と社会人1年生の卒業生に、大学での学びや保育者としての思いを語り合っていました。



「保育者は、人の成長に関わることができ、それが“心のこ褒美”でもある。私も学生から今までにたくさんのご褒美をもらいました」と石川先生。その言葉に深く頷く永宮さん

永宮 在学中の一番の思い出はゼミ。テーマや活動内容が興味深くて、楽しかったです。

石川 3~4年生の時、越前市のブラジル国籍の子ども達への学習支援や子ども食堂の手伝い、ポルトガル語の学びなど、ボランティアとしていろいろと取り組んだね。

永宮 最初は言葉の不安がありました、すぐに仲良くなりました。子ども達の考え方や文化・環境の違い、保護者からは困っていることや本音を聞くこともできました。

石川 年齢が近いので親しくなるのは驚くほど速かったよね。学生自身の感性や感度を生かした交流の結果だと感心しました。それに行政とのつながりや、ボランティアに参加する市民と学生の交流など、人とのつながりもできました。

永宮 今もお付き合いは続いています。ゼミでは、子ども達と“大学探検スタンプラリー”もしました。子ども達の視野の広さを感じました。学食でのランチも楽しかったです。

石川 経験で子どもは変化するし、将来を考えたり、夢も持つようになります。ゼミ活動をまとめた永宮さんの卒論は、良くまとまっていた。

永宮 充実したゼミ活動を経て、越前市への就職を希望して、念願の保育者になりました。

石川 新人で年長組の担当とはすごいわね。

永宮 でも、「今日の保育は良かったのかなあ」と反省することが多く、試行錯誤の毎日……。

石川 子どもは、家庭環境も個性もそれぞれ違うもの。それを心から理解して対応できる先生になってほしいです。でも一人で悩まず、園長先生や先輩、同僚に相談し、協働し、総合的に判断しながら良い保育をしていくことを忘れないで。子どもの“かけがえない命”を考え、見守ってください。

永宮 事情や環境の違いを受け入れつつ、家庭との連携も大切だと痛感しています。

石川 保育学で良く使われる言葉、“受容”(受け入れる)。仕事の中でその意味をしっかりと味わって、かみしめて！

永宮 今まさに実感中…頑張ります！

石川 その子にとって一番良いことを判断する、それが専門家としての対応ですね。

永宮 石川ゼミも含め、仁愛大学はフィールドワークを積極的に取り入れています。大学外でのいろいろな学びや人とのふれあいが多かったのも、仕事にも生かせそうです。

石川 在学やこれから入学する学生には、永宮さんのようにやりたいことに積極的に挑戦してほしいですし、大学はその熱意にしっかり応えていきます。

人間生活学部 開設10周年!!

昨年で人間生活学部は開設10周年を迎えました。これからも建学の精神「仁愛兼濟」をもって、社会の発展に貢献する有為な人材育成に取り組んで参ります。

Facebook 『世灯会』ページに「いいね」👍を!

『世灯会』Facebookページをご覧ください！イベントや同窓生の今、そして現在の大学の情報などを日々更新しています。

www.facebook.com/jindai.dousoukai



【卒業生ダイアログ】バックナンバー

今までURALAで発表した卒業生ダイアログを、世灯会ホームページ「卒業生情報」にて近日公開予定！ぜひご覧ください！



〒915-8586 福井県越前市大手町3-1-1
仁愛大学同窓会「世灯会」事務局

E-mail dosokai@jindai.ac.jp www.jindai-dousoukai.jp/